

# Hara Museum of Contemporary Art

## The Nature Rules 自然国家 Dreaming of Earth Project

発案・構成 崔在銀

2019年4月13日 [土] - 7月28日 [日] 原美術館



崔在銀  
*hatred melts like snow*  
2019  
©Kim Taedong  
(参考画像)  
Courtesy of the artist

### 【展覧会概要】

この度、原美術館では、崔在銀(チェ ジェウン)による発案・構成の「The Nature Rules 自然国家: Dreaming of Earth Project」展を開催いたします。

本展は、Korean War 休戦後、65年余りの歳月を経て非武装地帯(DMZ / Demilitarized Zone)に生まれた豊かな生態系を守り、生きとし生けるもの全ての共生を願って崔が2014年に立ち上げた「Dreaming of Earth Project (大地の夢プロジェクト)」の構想を可視化する展覧会です。本展の題名となっている「自然国家」とは、人間ではなく自然が治める国、崔の理想とする国のことです。

かつて「アショカの森」展(2010年、原美術館)を開催するなど、アートの視点から生命を見つめてきた崔の集大成とも言えるDMZを舞台にしたプロジェクトの実現に向け、彼女に共感する多くのアーティストや建築家の英知と共に、まずは原美術館から歩み出します。

### Dreaming of Earth Project とは

停戦ラインの北緯38度線から南北2kmずつの帯状のエリアは、「非武装地帯(DMZ)」と呼ばれる緩衝地帯。1953年の停戦後、軍事活動は許されなかったものの、300万個とも言われる数の地雷が敷設され、南北間の緊迫した状況が続いてきました。以来65年もの長きに亘って人が立ち入ることのなかったそのDMZは、今では101種もの絶滅危惧種を含め5,057種の生物を育む豊かな大地となっています。

皮肉にも人間の対立によって生まれたこの豊かな生態系を、いかにして後世に手渡してゆくか——崔は、DMZに生息する命と人と同じ大地の生物として共に生きる方法を探るため、2014年に「Dreaming of Earth Project」を立ち上げました。現在では、本展にも出品する数多くのアーティストや建築家、思想家が崔の元に集まり、具体的方法を提案しています。渡り鳥が羽を休める空の庭園や、人を地雷から守り、自然を人間から守ることのできる散策路、そして絶滅が危惧される植物の種を保存するシードバンクなど、実現には多くの困難が予想されますが、一步一步前進しています。

# Hara Museum of Contemporary Art

## The Nature Rules 自然国家 ～対立の地から生きとし生けるものの大地へ

本展の題名となっている「自然国家」とは、人間ではなく自然が治める国、崔の理想とする国のことです。アートとして形あるものをDMZの生態系に作るということは、たとえ僅かであっても人間が自然の営みに介入することを意味しますが、かといって何もしなければ、社会情勢次第で豊かな生態系が減びることも危惧されます。人が自然と関わりつつ、対立のエリアを生きとし生けるものの大地にするために崔が出した結論は、「自然国」の“法律”（＝詩）の“創作”です。

本展では、出品作家に加え、崔が信頼する人々が自然について思索し、共生のための“法律”（＝詩）を作ります。それらはいつの日か、鳥のさえずりや風にそよぐ草の音のように自然の一部となっていくことでしょう。

協力者：アン ソヨン、チェ ジェチョン、チョウ ミンスク、ギムホンソック、平野啓一郎、イ ウンジュ、李禹煥、ダニエラ モレラ、中村桂子 他

hatred melts like snow

——韓半島を二分する 248km の DMZ には、幾重もの鉄条網が約 70 年にわたり存在してきた。鉄条網は、かつては同じ民族だった者たちが、異なる理念の下に袂を分かち、刃を向け合うその憎しみを象徴している。

私は、境界線から撤去された鉄条網を熱で溶かすことにした。

そして、それを飛び石にし、誰もが上を踏んで歩くことができるようにした。

鉄条網は何にでもその姿を変えることができる。心臓、告白、台座、避難所など…。

愛を前に、憎しみは雪のように溶けるだろう

——崔在銀

## 崔在銀について

1953 年、ソウル生まれ。76 年より東京に在住し、草月流の華道を学ぶ。84 年から 3 年間、草月流三代目家元、勅使河原宏のアシスタントとなる。95 年には日本代表の 1 人として第 46 回ヴェネチア ビエンナーレに出品するなど、国際展への参加多数。2001 年には映画『On The Way』を発表し、映画監督としても活躍。2010 年、原美術館にて日本における初個展「アショカの森」を開催。

1976 年の来日を機に、日本の伝統芸術である生け花に魅せられた崔は、その成り立ちから革新性のある草月流と出会い、後に三代目家元であり映画監督でもあった勅使河原宏のアシスタントとして、生け花の表層だけでなく、その空間概念や宇宙観をも学び、自身の豊かな感性と共鳴させながら、作品をインスタレーションというかたちに昇華させていった。

1986 年には、「ワールド アンダーグラウンド プロジェクト」と称し、韓国の慶州や福井県の今立、欧米やアフリカなど、さまざまな土地でプロジェクトを開始。原美術館が所蔵する『モーツァルトへのオマージュ』（1988 年）もそのうちの 1 点である。和紙を地中に埋め、時を経て掘り出すこの作品は、作品の完成を作家の手ではなく、各地の地中の環境に委ねるというものだった。やがて彼女はマイクロの世界をモチーフとした作品も発表するようになるなど、崔の表現の形態は変化しても生命への深い関心は全作品に貫かれている。

# Hara Museum of Contemporary Art

## 【開催要項】

展覧会名	「The Nature Rules 自然国家 : Dreaming of Earth Project」 (欧文表記 <i>The Nature Rules : Dreaming of Earth Project</i> )
会期	2019年4月13日[土] - 7月28日[日] 開館日数 93日
助成	Korea Foundation
後援	駐日韓国大使館 韓国文化院
協力	DMZ Ecology Research Institute The War Memorial of Korea DMZ Museum 白岳窯 大韓航空
発案・構成	崔在銀 (チェ ジェウン)
出品作家	坂 茂、チョウ ミンスク、崔在銀、チョン ジェスン、川俣正、キム テドン、イ ブル、李禹煥、スン ヒョサン、スタジオ ムンバイ、スタジオ アザー スペーシズ : オラファー エリアソン、アンド セバスチャン ベーマン
主催・会場	原美術館 [東京・品川] 東京都品川区北品川4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651 E-mail <a href="mailto:info@haramuseum.or.jp">info@haramuseum.or.jp</a> ウェブサイト <a href="https://www.haramuseum.or.jp">https://www.haramuseum.or.jp</a>
休館日	月曜日 (4月29日、5月6日、7月15日を除く)、5月7日、7月16日
開館時間	11:00 am - 5:00 pm (5月1日を除く水曜は8:00 pm まで / 入館は閉館時刻の30分前まで)
入館料	一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円、70 歳以上 550 円 / 原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料 / 20 名以上の団体は 1 人 100 円引
交通案内	JR「品川駅」高輪口より徒歩 15 分 / タクシー 5 分 / 都営バス「反 96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩 3 分 / 京急線「北品川駅」より徒歩 8 分

\*日曜には当館学芸員によるギャラリーガイドを実施 (2:30 pm より 30 分程度)

\*会期中のイベントは決まり次第、原美術館ウェブサイトに掲載

**H A R A**  
**MUSEUM**

KOREA **KF**  
FOUNDATION  
한국국제교류재단

# Hara Museum of Contemporary Art

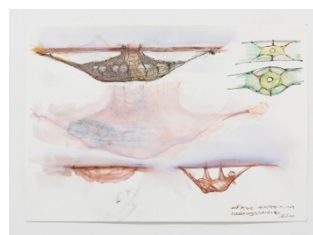
## 【広報用図版】



《図版 1》



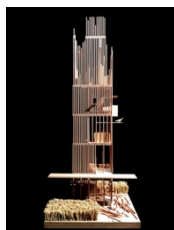
《図版 2》



《図版 3》



《図版 4》



《図版 5》



《図版 6》



《図版 7》



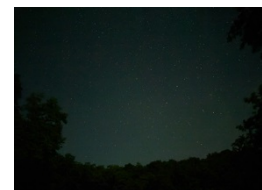
《図版 8》



《図版 9》



《図版 10》



《図版 11》

\* 掲載時のトリミングや文字載せはご遠慮ください。

\* 下記のクレジットを必ずご記載ください。

《図版 1》 崔在銀 *hatred melts like snow*, 2019 ©Kim Taedong (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 2》 Shigeru Ban Architects, *Bamboo Passage and Tower*, 2015, pencil on paper (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 3》 Lee Bul, *Study for DMZ Jung-ja Project 1*, 2017, pencil, watercolor ink, acrylic paint on paper 30.5 x 45.5 cm

(参考画像) Courtesy of the artist

《図版 4》 Studio Other Spaces: Olafur Eliasson and Sebastian Behmann, *Condensation pavilion* (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 5》 Seung H-Sang, *Birds' Monastery* (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 6》 李禹煥 「透明茶房イメージドローイング」 和紙にインク、2019 (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 7》 Studio Mumbai, *Tazia* (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 8》 Minsuk Cho, *DMZ Vault of Life and Knowledge*, 2016 (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 9》 川俣正 *Nest on the Cliff* (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 10》 崔在銀 *Recurring Tree* (参考画像) Courtesy of the artist

《図版 11》 Kim Taedong 「腔線-012」 2017 digital-pigment print 80cm x 104cm (参考画像) Courtesy of the artist

取材・図版提供などのお問い合わせ先： 原美術館広報 野田、市川 担当学芸員 坪内

Tel: 03-3280-0679 Fax: 03-5791-7630 E-mail: hmpr@haramuseum.or.jp

(いずれも広報直通／掲載時には代表番号・アドレスをお用いください)

Twitter: @haramuseum instagram: @hara\_museum

# Hara Museum of Contemporary Art

## 出品作家略歴

### 坂 茂

1957年東京生まれ。1985年、坂茂建築設計を設立。95年国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンサルタント、同年にNGOボランティア・アーキテクト・ネットワーク（VAN）を設立。主な作品にニコラス・G・ハイエク・センター、フランス国立近代美術館分館ボンピドゥー・センター・メス、静岡県富士山世界遺産センターなどがある。フランス芸術文化勲章コマンドゥール（2014）、プリツカー建築賞（2014）、JIA日本建築大賞（2015）、マザー・テレサ社会正義賞（2017）など数々の賞を受賞。2015年より慶応義塾大学環境情報学部特別招聘教授。

### チョウ ミンスク

1966年ソウル生まれ。1998年、ジェームス・スレードと共にニューヨークにてチョウ・スレード・アーキテクチャーを設立、その後2003年に韓国に戻り個人事務所マス・スタディーズを設立する。主な作品に、「ピクセルハウス」、「ミッシングマトリックス」、「バンドルマトリックス」、「2010年上海国際博覧会韓国パビリオン」、「ダウムスペース1」、「大田大学校学生寮（テジョン）」がある。最近では、ソウル市内の新しいシネマテークやタンインリ文化センターのデザイナーに選出されている。第14回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展でコミッショナーと共同キュレーターを務めた韓国館が国際建築展金獅子賞・パビリオン賞を受賞。2014年には、サムスン美術館プラトンの初の建築展となる個展「Before/After: Mass Studies Does Architecture」を開催。

### チョン・ジェスン

1972年ソウル生まれ。非線形動学や複合体系術によるアルツハイマー病の計算論を発表し韓国科学技術院（KAIST）物理学部から博士号を取得。イェール大学医学大学院博士研究員、コロンビア医科大学院助教授を経て、現在KAISTバイオ・脳工学科の教授を務める。また、科学や人文学など幅広い分野での著作・講演活動でも知られている。

### 川俣正

1953年北海道生まれ。1982年の第40回ヴェネチア・ビエンナーレに参加し、それ以降、ドクメンタ8、ドクメンタ9やサンパウロビエンナーレなどに参加する。ヨーロッパやアメリカ、日本で多くの個展やプロジェクトを手がける。主な展覧会に「Under the Water」（2016年、ボンピドゥー・センター・メス、フランス）がある。2005年に横浜トリエンナーレ総合ディレクター、2008年からはパリ国立高等芸術学院教授を務める。2013年、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

### キム テドン

1978年生まれ。中央大学校写真学科で学士、修士を取得。2011年、KT & Gのサンサンマダン主催によるSKOPF AWARDファイナリストに選出される。2012年、ギャラリーラックス主催の若手アーティスト支援プログラムにより個展を開催、同年第4回一字写真賞受賞。翌年、一字スペースにて個展「Day-Break-Days」を開催。また、「New Force of Photography」（2012年、古隠写真美術館、韓国）、「International Discoveries IV」（2013年、ヒューストンフォトフェスト、アメリカ）、「Dislocation/Urban Experience」（2015年、スミス大学美術館、アメリカ）、「Photographic Messages From Korea」（2016年、ラ・シャンブル、フランス）、「Civilization: The Way We Live Now」（2018年、国立現代美術館果川館、韓国）など国内外のグループ展にも数多く参加している。

### イ ブル

1964年韓国生まれ。ソウル市在住。1998年ヒューゴ・ボス賞ファイナリストに選出される。1999年ハラルド・ゼーマンキュレーションによる第48回ヴェネチア・ビエンナーレの韓国パビリオンで女性として初めて韓国の代表に選出され、また同展の国際展「dAPERTutto」にも参加する。それ以来、世界各国の美術館やギャラリーにて個展を開催。主な個展に、「Lee Bul: Live Forever」（2002年、ニューミュージアム、アメリカ）、「Lee Bul, On Every New Shadow」（2007年、カルティエ現代美術財団、フランス）、「イ・ブル展：私からあなたへ、私たちだけに」（2012年、森美術館、東京）、「Lee Bul」（2013年、MUDAMルクセンブルク・ジャン大公現代美術館、ルクセンブルク）、「Lee Bul」（2014年、国立現代美術館、ソウル、韓国）、「Lee Bul」（2018年、ヘイワードギャラリー、イギリス）/2018-2019年、グロピウス・バウ、ベルリン、ドイツ）などがある。

### 李禹煥

1936年大韓民国慶尚南道生まれ。1961年日本大学文学部哲学科卒業。多摩美術大学名誉教授。1960年代後半から「もの派」を牽引する中心的な役割を担う。主な個展に「Lee Ufan」展（2001年、ボン市立美術館・ドイツ）、「李禹煥 余白の芸術」展（2005年、横浜美術館）、「Resonance」展（2007年、ヴェネチア・ビエンナーレ・イタリヤ）、「LEE UFAN」展（2008年、ブリュッセル王立美術館・ベルギー）、「無限の提示」（2011年、グッゲンハイム美術館、アメリカ）、「Lee Ufan - Versailles」（2014年、ヴェルサイユ宮殿、フランス）、「Lee Ufan. Habiter le temps」（2019年、ボンピドゥー・メッス、フランス）などがある。また2010年には直島に李禹煥美術館が開館した。

# Hara Museum of Contemporary Art

## スン ヒョサン

1952年釜山生まれ。ソウル大学を卒業後、ウィーン工科大学に留学。1974年から1989年まで金壽根（Kim Swoo Geun）のもとで働き、1989年にIROJE architects & plannersを設立する。韓国の建築界に多大な影響を与えた「4.3グループ」の中心メンバーとして活動し、新しい教育システムを求めソウル建築学校設立に参加する。2002年にアメリカ建築家協会（AIA）により名誉会員に任命され、建築家初となる韓国国立現代美術館より「今年の作家」に選出され個展建築展を開催する。2007年、韓国政府より韓国芸術文化賞受賞。2008年のヴェネチア・ビエンナーレ国際韓国パビリオンの後、2011年光州デザイン・ビエンナーレの共同監督に就任する。これまでソウル大学、ノース・ロンドン大学、ウィーン工科大学などで教鞭を執り、現在は東亜大学校学部長、建築制作諮問委員会理事を務める。

## スタジオ ムンバイ

1995年、建築家ビジョイ・ジェインがインドのムンバイ近郊に設立した、設計から施工まで一括して熟練職人が手掛ける建築事務所である。自然の中に存在する人間と、人の内に在る自然との間の関係性に彼らの作品のエッセンスは存在する。第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展やヴィクトリア&アルバート博物館に出品。日本では、2012年に「スタジオ・ムンバイ展 PRAXIS」（ギャラリー間）やプロジェクト「夏の家」（東京国立近代美術館）を開催した。

## スタジオ アザー スペースズ : オラファー エリアソン アンド セバスチャン ベーマン (SOS)

2014年、アーティストのオラファーエリアソンと建築家のセバスチャン・ベーマンにより、アートと建築のために設立された国際的に活動するオフィスである。SOSは、実験に基づいた空間制作を追究しながら、より多くの建築を手がけることを目指し、公共の場での学術的実験的なプロジェクトや建築に焦点を当てている。SOSは、オラファーエリアソンスタジオが手がけていた学際的なプロジェクトが基となっている—その主な作品は、デンマークのヴァイレの「フィヨルドハウス」や、アイスランドのカンファレンスセンターである—そして現在は、アディスアベバ（エチオピア）やパリ（フランス）、その他あらゆる場所でプロジェクトを手がけている。